

学会からのお知らせ

2018年 第2号
 月号 220号

日本社会教育学会
<http://www.jssace.jp/>

第65回研究大会（名桜大学）のご案内

会場校から

嘉納英明（名桜大学）

初の沖縄開催である。記念すべき開催である。全国の会員が学会のために沖縄・名護に集結し、熱い議論を3日間も続ける。心の底から、“ようこそ 沖縄・名護へ”と歓迎の意を述べたい。

学会の開催を打診された時には、正直、ためらった。県内で学会員は私一人であるからだ。しかも本学は那覇から遠距離の場所にある。バスで2時間かかる。また、10月開催とはいえ、時期的にはまだ台風発生の可能性もある。本学は教育系の学部を持たず、大学院生もいないので、学部学生による学会運営である。果たして、学会開催は可能であろうか、と。しかし、県外には沖縄大好き会員が多数いらっしゃるし、研究調査のために度々沖縄を訪れている研究者もいる。強力な沖縄応援団の声援を受けて学会開催を決めた。現在、会場校企画、受付業務、教室配置、学食、懇親会等の調整中である。特に、学会2日目の懇親会は、学生会館（サクラウム）の6階の名護湾を見下ろす会場である。食事はもちろん、オリオンビールや泡盛の準備にも万全を期したい。

名護は地域づくりや社会教育実践が豊かな土地柄である。名護市は、以前から各支部に社会教育主事を配置し、地域情報を拾い上げ、発信している。名護は、北部12市町村の要である。この地で、日本社会教育学会を開催することは、県内外の会員と地元の関係者が交流し合う機会としても貴重である。会場校企画は「やんばるの地域課題と社会教育」とし、これと連動する形で学会3日目の午後は、エクスカージョン（プログラム参照）を設けている。名護市内外の施設等を訪問するものであるが、案内は地元の専門家である。

“やんばる ふんばる がんばる”を自然体で実践したい。多くの会員の参加をお待ちしている。

第65回研究大会

- ・日時：10月5日（金）～10月7日（日）
- ・会場：名桜大学（沖縄県名護市）
- ・参加費：一般 2500円、大学院生（会員） 1,500円
 ※会員の参加は、事前申込みが必要です。
 ※詳細は別途郵送のプログラムをご覧ください。

【目次】

第65回研究大会（名桜大学）のご案内	
・会場校から	1
・会場校企画「やんばるの地域課題と社会教育」	2
・プロジェクト研究「地域づくりと社会教育」「『学習の自由』と社会教育」「ワークライフバランス時代における社会教育」	2
・特別企画「公立社会教育施設の所管問題をめぐって」	4
・倫理研修会	4
・若手研究者のつどい	5
・ラウンドテーブル ①日韓学術交流の新たなる10年に向けて／②勤労者を対象としたメディア社会教育の「受け手」研究／③日本社会教育学会における男女共同参画・若手支援の現状と課題(1)／④人口減少社会における住民の学習権保障に向けた社会教育財政構造に関する研究／⑤障害者と社会教育をめぐる意見交換ワークショップ／⑥労働・家族と女性の学習／⑦Pokémon GOによる地域の発見と課題／⑧子どもに関わる大人の学び／⑨SDGsと社会教育(5)	5
理事会だより	8
事務局だより／寄贈図書一覧	12
お知らせ・募集	14

会場校企画「やんばるの地域課題と社会教育」

嘉納 英明 (名桜大学)

近年、沖縄の観光産業は急激な成長を遂げ、今年度の観光客数はハワイを抜いた。文字通り、沖縄の観光は主要産業として確固たる地位を築いている。県内人口も全体としては伸び続け、元気のある沖縄の印象を内外に発信しているが、県内の離島・へき地では人口が流出し、若者をいかに定住させるか、医療や教育をどのように維持していくのかが喫緊の課題となっている。これらは、本学が位置するやんばる（沖縄本島北部地区）の主要な課題でもある。また、ここ沖縄においても少子高齢化の問題は深刻化しつつあり、やんばるの社会教育の活動の在り方を問い、地域社会づくりの方向性についても重要な問題を提起している。

以上の沖縄・やんばるの状況をふまえ、第 65 回大

会の会場校企画は、「やんばるの地域課題と社会教育」をテーマとした。末本誠（湊川短期大学長）会員の、進行により、やんばる・沖縄・日本の地域課題を社会教育の視点から丁寧に掘り起こし、これからのシマづくりの展望を拓く手がかりにしたい。まず、山里勝己（名桜大学学長）による、やんばるにおける地域の大学の役割について報告を受け、次の 3 名の登壇者を予定している。

稲嶺進（前名護市長）は、社会教育主事としての経験をもとに名護のまちづくりと社会教育について、島袋正敏（元名護博物館長）は、沖縄の文化資源を活かした地域づくり実践について報告する。石野裕子（今帰仁村歴史文化センター長）は、子どもと住民が地域の歴史や自然を学ぶ「やんばるのムラ・シマ講座」の活動について報告する。

プロジェクト研究「地域づくりと社会教育」

「地域づくりと社会教育の概念・価値の再検討(2)」

大高 研道 (明治大学)

社会的協同実践にともなう学びは、社会教育実践・研究の重要な側面として理解されてきた。しかしながら、それらの学びがいかなる意味において「社会教育」的なものか。その固有の意義と役割について必ずしも十分に共有されてきたとはいえない。本プロジェクトでは、あらためて地域づくりを題材に社会教育の価値と概念の再構成を試みる。とりわけ、まとめにあたる本大会では、以下の 3 点を中心に報告・議論したい。

①地域づくりという視点から見たとき、社会教育の価値をどのようなものとして捉えることができるのか。

②社会教育の価値を設定する際、我われはどのような地域像・社会像を描くことができるのか。そしてそれ

は必要なのか。価値の問題はすぐれて規範的性格を有するが、地域社会の「現実性」を視野に入れつつ、社会教育像の輪郭を描く試みに取り組みたい。このことは、社会教育において実現すべき教育的価値を問い直すことにもつながるであろう。

③これらを踏まえた上で、これまで明示的、暗示的に前提としてきた社会教育の制度・施設・職員像にどのような再検討が迫られているのか。その現実と展望について検討したい。

司 会：大高 研道 (明治大学)

岡 幸江 (九州大学)

報告 1：宮崎 隆志 (北海道大学)

報告 2：牧野 篤 (東京大学)

コメンテーター：小栗 有子 (鹿児島大学)

添田 祥史 (福岡大学)

プロジェクト研究 「『学習の自由』と社会教育」

「公民館の自由と自治を捉え直す」

安藤 聡彦 (埼玉大学)

本プロジェクト研究は本年度で2年目を迎えている。6月集会では、9条俳句不掲載事件国賠訴訟東京高裁判決を受け、「9条俳句訴訟；到達点と課題」をめぐる議論を深めた。そこでは、9条俳句事件が公民館における学びのあり方そのものの価値を問うものであるとともに、公民館の組織・運営のあり方の原理にかかわる問題であることがあらためて確認された。そこで研究大会では、「公民館の自由と自治を捉え直す」というテーマをたて、沖縄における長く深い公民館の取り組みに学びつつ、公民館史研究や公民館判例研究の蓄積を共有しながら、教育施設としての公民館のあり方そのものについて議論を深めることにした。周知のように公民

館を一般行政に移管する政策的誘導が強められつつある。公民館の自由と自治の歴史的な意味と今日的課題を探る研究討議の場としたい。

司 会：安藤 聡彦 (埼玉大学)

報告 1：「公民館の自由と自治；

公民館紛争判例研究を通して考える」

谷 和明 (東京外国語大学名誉教授)

報告 2：「自治と協同の地域づくり—国頭村与那地区交流拠点施設「よんな～館」(旧与那公民館)の取り組みから」

大城 靖 (国頭村役場・ユナムダクマ協議会事務局長)

報告 3：「公民館における自由と自治の論点

—公民館主事の観点から—

上野 景三 (佐賀大学)

プロジェクト研究 「ワークライフバランス時代における社会教育」

「社会教育はワークライフバランス時代にどのような意義を持ちうるか(1)：ジェンダーの視点から」

河野 和枝 (北星学園大学)・井口 啓太郎 (文部科学省)

本プロジェクト研究は、先の東洋大学にて開催された六月集会において、初めてのプロジェクト研究企画を行い、とりわけ、ワークとライフの分割不可能なありよう、それらへの性(別)による制限などが課題として確認された。

このことを踏まえ、本研究大会ではジェンダーを軸として「ワークライフバランス時代」の時代把握を共有しながら、ワークとライフに関わる諸問題を整理し、その解決に求められる社会教育実践の展望を探る。

まず、富永貴公会員が、六月集会における議論をふりかえりながら、政策用語にとどまらない“ワークライフバランス”、本プロジェクト研究の課題について、ジェンダー研究の蓄積と社会教育研究を重ね合わせながら整理する。野依智子会員からは、リスクが集中する非

正規シングル女性たちが抱える労働・生活問題の整理とそれを乗り越える教育・学習について、吉岡亜希子会員から、男性の、とりわけ父親たちが抱える地域、家庭における生活者としての主体形成をめぐる課題についてご報告いただく。

これらの報告に対し、南出吉祥会員のコメントを受け、ジェンダーを切り口としてワークライフバランス時代における社会教育の意義と可能性について、参加者とともに議論したい。

司 会：井口 啓太郎 (文部科学省)

河野 和枝 (北星学園大学)

報告 1：「『ジェンダーと社会教育』のこれまでとこれから」

富永 貴公 (都留文科大学)

報告 2：「非正規シングル女性たちの労働・生活問題」

野依 智子 (福岡女子大学)

報告 3：「生活者としての父親たちの学びと新しい価値の創造」吉岡 亜希子 (北海道文教大学)

コメンテーター：南出 吉祥 (岐阜大学)

特別企画 「公立社会教育施設の所管問題をめぐって」

長澤成次（千葉大学名誉教授）

現在、中央教育審議会生涯学習分科会においては、2017年12月26日の公立博物館の所管に関する閣議決定、中教審生涯学習分科会WGでの議論、2018年3月2日の林文部科学大臣による中教審への諮問「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」を受けて、公立社会教育施設の所管の在り方について審議が進められている。

このような政策的な流れは、昨年8月に顕在化した文部科学省の組織改編（生涯学習政策局と社会教育課の「廃止」など）、博物館の文化庁移管（文部科学省設置法改正）、文化財保護法改正、文化財保護事務の首長部局移管を可能にした地方教育行政法改正などの一連の政策的展開と密接に結びついている。日本社会教育学会は、このような事態に対して、2018年6月2

日に東洋大学で開催された全国理事会において、「公立社会教育施設の教育委員会所管堅持に関する要望書」を採択し、6月11日に文部科学省に提出した。同要望書は、公立の公民館・図書館・博物館を首長部局で所管できるようにする特例措置導入における法的疑義と、もし導入された場合には自治体によっては社会教育行政の衰退という深刻な事態を招く恐れがあることなどを指摘している。

本「特別企画」は、この極めて重要なテーマについて、長澤成次会員「公立社会教育施設の所管問題とは何か」（千葉大学名誉教授）、山口源治郎会員「図書館研究の立場から」（東京学芸大学）、山本健慈会員「中央教育審議会生涯学習分科会の議論から」（国立大学協会）からご報告をいただく予定である。なお、司会は、村田和子会員（和歌山大学）である。

倫理研修会

村田和子（倫理委員会委員長／和歌山大学）

今期の倫理委員会は、学会として取り組むべき倫理の課題は何かを明らかにしたうえで、今後の学会としてのビジョンを有して、倫理委員会を進めることを念頭において、今後の任期中に全3回の研修会を開催する予定である。今回は、第一回として実施する。

近年（社会教育研究でも）質的研究への関心が高まっているが、質的研究における研究倫理の問題に我々はどこまで自覚的であるのか。無自覚、無意識に進めている研究が、ややもすると、「収奪的研究」や、当事者の人権侵害に至るということもありえるのではないかと。研究者の側の論理ではなく、当事者や当事者を含めた団体・組織が、自らを研究対象とする研究者をどのように見ているか・感じているかに学ぶ機会が必要ではないか、という倫理委員の共通する課題意識をもとに設

定した。研修内容の詳細は、下記のとおりである。

- ・日時：2018年10月5日（金）16:00～17:30
- ・テーマ：「アメラジアン・スクール・イン・オキナワ」の実践に学ぶ
- ・内容・進め方：「アメラジアン」とは、アジア国籍を持つ親とアメリカ国籍を持つ親の間に生まれた人々を総称する言葉である。

研修は、二部構成で進める。第一部は、「アメラジアンの子どもたちの支援活動とその背景」について、トランプス・ウィリアムス氏（アメラジアン・スクール・イン・オキナワ校長）に講演（30分）をいただく。第二部として、対話形式の質疑応答（聞き手：添田祥史会員）を行い、自らを研究対象とする研究者をどう見ているか、感じているかについてもふれていただく。会員の積極的な参加を期待したい。

若手研究者のつどい

溝内 亮佑 (九州大学大学院)

これまで「若手研究者のつどい」は、研究の道を志す若手同士が意見を交わす場となるべく、毎年様々なテーマを設定し、議論を行ってきた。

特に近年では、研究内容に関する議論だけでなく、若手研究者を取り巻く生活上の諸課題を共有することへの関心が高まっているようだ。そこで、「つどい」はお互いの悩みを率直に語り合えるような場となることを目指してきた。また一方で、一回限りの交流にならないように、昨年度は「つどい」の場に何を求めるのかということ自体も議論のテーマとして取り入れた。兎も角、若手研究者にとって継続的な交流の機会となるよう今年度も工夫を凝らしたい。

併せて本年度より理事会では、若手研究者に対する具体的で有効な支援について再考が始まっているとい

う。そうした議論と「つどい」のあり方も、連動して考えていく必要があるだろう。たとえば「つどい」において、若手としてどういう支援を求めるのか、理事会に対する若手のニーズを拾い上げるといったことが考えられる。これまでのように、お互いの悩みを忌憚なく語り合う場として一層の充実を目指していくことは勿論である。更に、そうした声をより具体的な要求として形にしてい

くことを今年度の展望としたい。

最後に、所属の違いだけでなく、参加経験の有無、世代、研究関心、あるいは「つどい」に何を求めるのか等、そういった違いに関わらず、皆様に気軽に参加して頂ければと思っている。これからの「つどい」の意義を考える上でも、様々な立場、視座からの意見を頂戴したい。当日の「つどい」の場が多様性に富んだ場となることを強く願っている。

ラウンドテーブル

①日韓学術交流の新たなる 10 年に向けて

秦 範子 (都留文科大学・非常勤)

本学会は韓国平生教育学会との「学術交流協定」により日韓学術交流研究大会を毎年日韓相互で開催し、2019年1月には10回目を迎える。本ラウンドテーブルでは報告者から次回大会のテーマ「社会問題の解決に向けた社会教育／平生教育専門職の役割」に基づく内容でご報告いただくとともに、新たな10年を迎えるにあたり、これまでの研究成果をどのように総括し、学術交流に資する活動に今後発展させていくか、議論を深めたい。

コーディネーター：秦 範子 (都留文科大学・非常勤)
野元 弘幸 (首都大学東京)

報告者：堀 薫夫 (大阪教育大学)
松尾 有美 (東京大学大学院)

②勤労者を対象としたメディア社会教育の「受け手」研究

長崎 励朗 (桃山学院大学)

このラウンドテーブルでは戦後社会教育の「受け手」側の心性史について議論してみたい。教育がコミュニケーション行為である以上、その「受け手」に着目することは不可欠だ。このような考えのもと、メディアを用いた社会教育の「受け手」側がどのような動機に基づいて社会教育を受けてきたか（あるいは受けなかったのか）に焦点をあてることで、分野横断的に現代の社会教育に資する知見を得ることが目的である。

コーディネーター：
長崎 励朗 (桃山学院大学)

報告者：
花田 史彦 (京都大学)
木下 浩一 (京都大学大学院)

③日本社会教育学会における男女共同参画・若手支援の現状と課題(1) － GEAHSS 加盟を記念して－

村田 晶子 (早稲田大学)

2018年に「人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会(略称 GEAHSS)」が発足、日本社会教育学会も加盟しました。これを記念して、また今回沖縄での研究大会開催ということで下記の通りラウンドテーブルを開催します。学会の男女共同参画、若手支援について検討したいと思います。

コーディネーター：村田 晶子 (早稲田大学)

報告：「沖縄の女性研究者の現状と課題」

大城 智美氏 (沖縄女性研究者の会代表)

④人口減少社会における住民の学習権保障 に向けた社会教育財政構造に関する研究

田開 寛太郎 (松本大学)

受益者負担の広がりや指定管理者制度の導入、公共施設等の再編によって、社会教育財政がますます脆弱になっていくことが考えられる。そのなかで、住民の学習権を支える社会教育財政の構造を明らかにする必要がある。

そこで本ラウンドテーブルでは、社会教育だけではなく観光等に関わる地域の学びに関する財政の現状や社会教育財政研究の蓄積を共有することで、これからの研究を進めていく上での課題を確認する場とした。

コーディネーター：田開 寛太郎 (松本大学)

報告者：石山 雄貴 (学習院大学)

現場からの声 (調整中)

⑤障害者と社会教育をめぐる意見交換ワークショップ －実践・政策・研究の論点整理に向けて－

津田 英二 (神戸大学)

井口 啓太郎 (文部科学省障害者学習支援推進室)

これまで障害者と社会教育をめぐる研究は、本学会において蓄積の少ない分野であったが、近年、障害者社会教育の実践と政策は、その周辺分野を中心に新たな動向がみられる。障害者福祉制度や大学公開講座等を活用した実践の試み、障害者の生涯学習、スポーツ、芸術文化活動を推進する政策など、多様な展開の全体像は把握が難しくなっている。

障害者の権利保障としてこれまで取り組まれてきた障害者青年学級等の実践・研究を踏まえつつ、今後の課題を共有する意見交換・論点整理の場としたい。

コーディネーター：

池田 法子 (足利短期大学)

小林 洋司 (日本福祉大学)

島本 優子 (徳島市役所)

橋田 慈子 (筑波大学大学院)

正木 遥香 (大分大学)

松田 弥花 (高知大学)

向井 健 (松本大学)

話題提供兼ファシリテーター：

津田 英二 (神戸大学)

井口 啓太郎 (文部科学省障害者学習支援推進室)

⑥労働・家族と女性の学習：戦時の経験から「女性活躍」時代を問う

辻 智子（北海道大学）

六月集会会場校企画「未完のプロジェクト・男女平等—共に生きるための学びを紐解く」での報告・議論を引き継ぎ、労働・家族にかかわる政策・運動・実践の歴史研究を手がかりとして、現在の「女性活躍」をどうとらえ、そこに社会教育研究はどうかかわるかを議論する。話題提供として、報告①「女性労働と社会事業：戦時軍事援護にみる女性と国家の関係」（亀口）、報告②「地域生活と女性の“参画”」（辻）を行う。

コーディネーター：亀口 まか（龍谷大学）

辻 智子（北海道大学）

報告者：亀口 まか（龍谷大学）

辻 智子（北海道大学）

コメント：富永 貴公（都留文科大学）

⑦ Pokémon GO による地域の発見と課題

瀧端 真理子（追手門学院大学）

2016年にリリースされたPokémon GOは、レイド機能導入による地域コミュニティの形成、フレンド機能導入によるグローバルな連帯を促しつつある。従来なら接点のなかった多様な属性の人々が出会い、移動することで行動範囲と人間関係が広がり、時としてトラブルを生み出す。本ラウンドテーブルではPokémon GOトレーナーにインタビュー調査を行っている圓田浩二氏の報告、瀧端の参与観察報告を踏まえ、コミュニティ形成の利点と課題を議論したい。

コーディネーター：瀧端 真理子（追手門学院大学）

報告：圓田 浩二（沖縄大学）

瀧端 真理子（追手門学院大学）

⑧子どもに関わる大人の学び—親のエンパワメントを支える関わりをさぐる

井上大樹（札幌学院大学）

現在の子育てでは、都市部を中心に保育所不足による「保活」は定着し、学齢期の親へは家庭教育への責務を負わされる。一方、社会教育による「親育ち」は子どもを育てる者としてのエンパワメントを追求してきた実践的、研究的蓄積がある。今回は、これまでのラウンドテーブルの議論の総括（河野報告）と今後に向けての問題提起（相戸報告）（榎報告）をもとに参加者の問題関心や実践から「子育て学習」に関する論議を深めたい。

コーディネーター：河野 和枝（北星学園大学）

大坂 祐二（名寄市立大学）

榎 ひとみ（函館短期大学）

相戸 晴子（宮崎国際大学）

井上 大樹（札幌学院大学）

報告者：河野 和枝（北星学園大学）

相戸 晴子（宮崎国際大学）

榎 ひとみ（函館短期大学）

⑨SDGsと社会教育(5)

岩本 泰（東海大学）

瀧洋子氏は、那覇市を拠点として、「那覇市繁多川公民館」指定管理団体「1万人の井戸端会議」副代表・事務局長として「1万人規模の地域と学校でまちづくり」を展開してきた。そこで今回は、活動実践を振り返り、象徴的な事例紹介を発題いただく。大島順子会員は、やんばるでのワイルド・ツーリズムを中心に、これまで持続可能な観光やESD等について研究されてきた。今回は、地域の持続可能性に向けて、SDGsによる観点で話題提供をしていただく。

コーディネーター：岩本 泰（東海大学）

報告者：瀧 洋子（特定非営利活動法人1万人井戸端会議 副代表・事務局長）

大島 順子（琉球大学）

理事会だより

● 2018 年度 第 5 回常任理事会

(2018 年 3 月 16 日：早稲田大学)

出席：理事 12 名、幹事 1 名、事務局員 1 名

1. 前回議事録の承認
2. 入退会者の報告・承認
3. 六月集会について
 - ・実行委員長は関直規会員（東洋大学）であることが報告された。
 - ・会場校企画案「未完のプロジェクト・男女平等—共に生きるための学びを紐解く」が提示された。
 - ・特別企画「職員問題」について説明がなされた。テーマは「新しい社会教育主事養成制度にどのように取り組むか」。
 - ・要旨集の原稿データ、プログラムの初校入稿校正期限が提示された。
4. 第 65 回研究大会（名桜大学）プログラムスケジュールの件
 - ・会場校との打ち合わせについて報告がなされた。
 - ・会場校までの交通アクセス、会場校近くの宿泊先情報などが会場校より提供された。
 - ・若手研究者のつどいは、九州地区の若手研究者を中心に企画される予定である。理事会幹事は当日、手伝い等を依頼される可能性があるとの報告がなされた。
5. ジャーナル編集体制案について（事務局、ジャーナル担当）
 - ・ジャーナル編集体制案について事務局長とジャーナル担当から提案された。
 - ・編集体制案について質疑応答が行われ、第 54 号は担当理事が作業をすすめること、第 55 号以降のジャーナル編集体制は編集体制提案を再度練り直すことが確認された。
6. 各担当報告（担当理事）
 - 1) 研究
 - ・各プロジェクト研究の活動状況について報告がなされた。
 - ①ワークライフバランス時代における社会教育
 - ・プロジェクト期間の延長について：当初プロジェクトの期間は 2 年（2017.9-2019.9）であったが、3 年間（2017.9-2020.9）に延長をすることが、承認された。

・1 月 28 日（日）、東海大学高輪キャンパスにて研究会が実施された。

②地域づくりと社会教育

・3 月 9～10 日（金・土）に、東北大学にて、カン・デジュン先生（韓国：ソウル大学）をお呼びし、研究会が実施された。

2) 年報

・年報『社会教育職員養成と研修の新たな展望』構成案や、編集状況について報告がなされた。

3) ジャーナル

・54 巻の査読・編集状況についての報告がなされた。

・研究担当理事に対し、「六月集会、研究大会の非会員報告者には、ジャーナル掲載のための原稿依頼が後日あることを、事前通知してほしい」という依頼がなされた。

4) 通信・広報

・六月集会の案内号は、4 月下旬に発行予定であるという報告がなされた。

5) 国際交流

・2018 年度日韓学術研究大会（九州大学）準備状況について報告がなされた。日程は、2019 年 1 月 26（土）～27 日（日）を予定しており、28 日（月）にエクスカージョンが入る可能性あるとの説明がなされた。

6) 九条俳句不掲載問題

・関連資料が配布され、説明がなされた。

7) 倫理委員会

・倫理委員会の発足に関して、報告がなされた。第 1 回倫理委員会を、六月集会の初日 6 月 2 日（土）に実施。沖縄（名桜大学）での研究大会における研修や、今後 2 年間のスケジュールと役割分担を協議予定であるとの説明があった。

7. 三役・事務局報告

1) 1/21 文部科学省組織改編に関するシンポジウムの実施報告がなされた。83 名の参加があり、アンケートの回答からおおむね好評であったこと、印刷資料は 150 部で完売したとの説明がなされた。

2) GEAHSS（人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences, GEAHSS（ギー

ス))のアンケート実施について説明がなされた。

3) プログラム印刷業者変更について

- ・大会プログラム、六月集会案内の印刷と配送は、NPO 法人アンティ多摩に今後は業務委託する報告がなされた。

4) 公立の社会教育機関の所管に関する文部科学省のワーキンググループ成立に関して

- ・日本社会教育学会から、ワーキンググループへの要望書提出に関して、議論がなされた。

5) 全国社会教育職員養成研究連絡協議会(社養協)から集会案内がなされた。

● 2018 年度第6回常任理事会

(2018 年 4 月 23 日：早稲田大学)

出席者：理事 11 名、幹事 8 名、事務局員 1 名

1. 前回議事録承認

2. 入退会者の報告・承認

3. GEAHSS 活動への関わり方について

1) 3 月 31 日(土)に GEAHSS シンポジウムが開催され、出席した村田理事から、以下の報告がなされた。

- ・日本学術会議の総合ジェンダー部会が人文科学系・社会科学系学協会に呼びかけ、53 の学会・協会が集まり、3 月 31 日(土)に GEAHSS が発足した。当日は、役員決め等が行われた。男女共同参画学協会連絡会は自然科学系学協会の連絡会であり、先んじて男女共同参画に関して動いている。GEAHSS は、人文科学系・社会科学系学協会において、男女共同参画推進について取り組んでいくことについて説明がなされた。

2) 村田理事より以下の提案がなされた。

- ・日本社会教育学会内に GEAHSS 担当を設定することが提案され、承認された。
- ・GEAHSS 連絡会への出席者を理事会(常任／全国)担当者の中から 1 名増員してはどうかという提案がなされ、六月集会時に開催される全国理事会でこれまでの経過について説明および提案をし、今後の展開を検討することが決定された。
- ・GEAHSS では男女の問題だけではなく、若手支援も検討している。若手支援について、秋の研究大会でラウンドテーブルを実施するのはどうかという提案がなされ、今後の検討課題としていくことが確認された。

4. 第 65 回研究大会(名桜大学)関連について

- ・事務局・研究担当からプログラム企画案が提示され、承認された。
- ・プロジェクト研究については承認後、配置を検討する。
- ・特別企画は、文部科学省の改革もふまえながら検討することが確認された。
- ・会場校企画は、「沖繩やんばるの社会教育と地域づくり」というタイトルで実施される予定であることが提案された。
- ・名桜大学内の宿泊施設への申し込みは HP での大会案内を参照して個別に申し込んでいただきたい旨が説明された。

5. 日韓学術交流研究大会の位置づけ、および費用について

- ・日韓学術交流研究大会会場校(九州大学)の準備状況について報告がなされた。
- ・学会からの補助金額等についての質疑応答がなされた。
- ・8 月までにはプログラム案を提案していく予定であると説明がなされた。

6. 各担当報告

1) 研究

- ・新プロジェクトの募集について、通信第 1 号で募集を行う予定。
- ・各プロジェクトの今後の研究会実施について報告がなされた。

2) 年報

- ・年報の編集経過について報告がなされ、編集委員会で検討してほしい内容に関して質疑応答がなされた。

3) ジャーナル

- ・投稿論文の査読状況について報告がなされた。査読結果に時間を費やしており、発行時期が遅れる可能性があるが、可能な限り早く発行できるように努力しているとの説明がなされた。
- ・編集事務局体制構築の経過について報告がなされた。

4) 通信・広報

- ・通信の完成原稿の確認がなされた。

5) 組織・財政

- ・六月集会情報のホームページへの対応、次回研究大会(10 月名桜大学)の参加申し込みについての情報開示の準備を進めているとの報告がなされた。

れた。

6) 国際交流

- ・六月集会時に、第1回国際交流委員会を開催する報告がなされた。
- ・第10回日韓学术交流大会の企画内容についての報告がなされた。大会テーマについては、国際交流委員会、現地実行委員、韓国側と協議して、引き続き検討していく説明がなされた。

7. 三役・事務局報告

1) 六月集会関連について

- ・六月集会プログラム案が回覧され、六月集会の事務連絡が事務局の竹林さんよりなされた。

2) 中教審生涯学習分科会 WG における社会教育施設の所管問題について

- ①長澤会長から「公立社会教育施設の所管の在り方等をめぐる国・中教審の動向」について報告がなされた。
- ・今後、常任理事会では、「要望書」を作成し、次回理事会で検討し、6月2日(土)第一回全国理事会で内容を確定させることが確認された。

②若手育成セミナーについて

- ・日本教育社会学会などでは、若手研究セミナーが開催されているが、こうした事例を参考に社会教育学会でも、若手に対してセミナーを開催できないだろうかと考えている。方法論の議論などでも良いと考えているが、若手研究者から意見が多く出るような仕組みがあればと考えているとの提案がなされ、質疑応答が行われた。

3) 教育関連学会連絡協議会総会について

- ・教育関連学会連絡協議会総会の開催報告がなされた。

4) その他

- ・日本環境教育学会から「持続可能な社会をつくる教育辞典への共同作成事業」への参加依頼があり、秦範子常任理事を推薦したい旨が提案され、承認された。

● 2018 年度第7回常任理事会

(2018年5月28日：早稲田大学)

出席者：理事13名、幹事7名、事務局員1名

1. 前回議事録承認

- 2. 新幹事(川尻剛士幹事)が研究担当幹事として承認され、長澤会長から委嘱状が手渡された。

3. 入退会者の報告・承認

4. 第65回研究大会(名桜大学)関連(プログラム案)について

- ・各プロジェクトから企画内容の報告がなされた。
- ・三役より特別企画：「公立社会教育施設の所管問題をめぐって」をテーマとして実施する提案がなされ、質疑応答を経て承認された。
- ・倫理研修について、六月集会時に倫理委員会を開催し、検討することが報告された。
- ・会場校企画：「やんばるの地域課題と社会教育(仮)」をテーマとし、企画進行は末本誠会員(湊川短期大学長)が担当することが報告された。
- ・プログラム案の時間配分について承認され、プログラム内容については、今後、調整を進めていくことが確認された。

5. 新プロジェクト募集について

- 1) 研究担当より新プロジェクトについて一件の応募があったことが報告され、協議を行った。
- ・協議の中で、今後のプロジェクト研究の方向性をどうするかについて意見交換がなされ、研究担当からは、以下の方向性が提案された。
- ・長期的視点での検討が必要な「今後のプロジェクト研究の方向性」について、前期からの課題を踏まえながら検討していくことが確認された。
- ・今回応募されたテーマに対しては、研究担当理事の間で検討し、六月集会時の全国理事会で提案するとの説明がなされた。

6. 社会教育施設の所管問題について

- ・中央教育審議会会長・生涯学習分科会会長宛てに「要望書」を提出し、社会教育関連学会、関連機関・関連団体にも呼びかけ、共同声明という形で提出する旨が提案された。
- ・「要望書」の形式は、承認され、内容に関して意見がある場合は、6月1日(金)までに長澤会長に連絡することが確認された。

7. 若手会員への支援体制の検討について

- 1) 第65回研究大会(名桜大学)の若手研究者交流のつどいについて企画説明がなされた。九州大学の院生を中心に、北海道大学の院生にも協力いただき、実施予定。ただ、近年はあまり人数が集まらないようであるため、今後、若手研究者交流のあり方、活性化の方法について考える必要があることが確認された。

- 2) 若手会員の萌芽的研究の申し込み(2件)につ

いて報告がなされた。

3) 若手支援の今後のあり方を検討する上で、他学会の状況について調査報告がなされ、今後の若手支援策の改革プロセスについて以下のスケジュールが提案され、質疑応答が行われた。

- ・第65回研究会（名桜大学）の全国理事会において、日本社会教育学会でも若手会員（主に40歳未満）支援を行うことを提案したい。
- ・研究会後、若手会員からの意見集約を行い、2019年の六月集会において、プレイベントを行う方向性で検討している。

8. 各担当報告（担当理事）

1) 研究

- ・六月集会のプログラム変更について報告がなされた。
- ・各プロジェクト研究の活動について報告がなされた。

2) 年報

- ・年報の進捗状況について報告がなされ、6月3日（日）に第4回編集会議を開き、入稿、完成を目指すことが確認された。

3) ジャーナル

- ・54巻、55巻の刊行作業経過について報告がなされた。54巻刊行は通例ならば六月集会の時期であるが、発行遅延の見込みである。発行遅延の理由と対策について質疑応答がなされ、可能な限り早く発行を進めることが確認された。
- ・55巻の編集委員については、54巻刊行後に人選・依頼を開始する予定であるとの報告がなされた。

- ・六月集会の報告原稿については、研究担当理事から報告者に依頼を行うことが確認された。

4) 通信・広報

- ・現状と今後の予定について報告がなされ、六月集会報告と第65回研究会（名桜大学）の案内について同時並行で進むため、執筆依頼をされた方は協力をお願いしたいとの説明がなされた。

5) 国際交流

- ・六月集会2日目に国際交流委員会を開催し、主に2019年1月に行われる日韓学術交流会の打ち合わせを行うことが報告された。

6) 九条俳句不掲載問題

- ・裁判の進捗状況について、報告がなされた。5月18日（金）、高裁の判決が出されたが、地裁判決とは異なり、さいたま市の違法性を明確に認めるものとなった。上告の可能性はまだ不明である（上告期限は6月1日）。上告なしで決着の場合、損害賠償（5,000円）は支払われることになるだろうが、原告が求める俳句掲載については、裁判所は却下としている。そのため、今後、さいたま市に掲載の申し入れなどをしていくことが、課題として残されているとの説明がなされた。

7) 倫理委員会

- ・六月集会初日に会議を実施する報告がなされた。

9. 三役・事務局報告

- 1) 六月集会事務関連について、事務局竹林さんより説明がなされた。
- 2) 全国理事会（6/2）の資料提出期限について、期限が提示された。

事務局だより

◇学会の新年度（2019年度）は、2018年9月1日から始まります。新年度の学会費のお支払いにはプログラムに同封の郵便払込票をご利用ください。

〈2015年度分を滞納している会員〉

2018年度末までにお支払いがない場合には自動的に退会対象となってしまいますので、2018年8月31日までにお振込ください。

〈支払済の方・口座引落としの方〉には払込票を同封しておりません。

〈口座自動引落とし〉次回2019年度分引落しは、2018年12月20日（予定）ですので、残高をご確認ください。

引落とし口座の変更・取止め、または新規ご希望の方は、事務局までご連絡ください。2019年度分の引落とし手続きは9月末日〆切です。会費納入状況は、会員サイトへログインして確認できます。

◇住所・所属等の変更

各自HPの会員サイトにログインして変更してください。その際、所属ブロック・所属分類の変更もお忘れなく。（自分で変更できない場合は、メールにて事務局宛ご連絡ください。）

※年報・ジャーナルは、東洋館他各印刷所より宅配業者のメール便にて配送しているため、郵便局へ転送届を提出しても転送されませんのでご注意ください！

◇事務局開室

月・木（祝祭日除く）10:30～16:30／

電話受付：月・木（祝祭日除く）11:00～16:00

メール対応は随時行っておりますので、なるべくメールでの連絡をお願いいたします。

事務局 E-mail：jssace.office@gmail.com

※8/13（月）・16（木）は事務局閉室です。

寄贈図書一覧

No.	著者	タイトル	巻号	出版社	発行年
1	香川大学	『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』	第23号		2018
2	早稲田大学教育学会	『早稲田大学教育学会紀要』2017年度	第19号		2018
3	名古屋大学大学院教育発達科学研究科	『紀要』	第64巻 第2号		2018
4	名古屋大学大学院教育発達科学研究科社会・生涯教育学研究室	『社会教育研究年報』	第32号		2018
5	淑徳大学研究紀要編集委員会編	『淑徳大学研究紀要（総合福祉学部・コミュニケーション政策学部）』	第52号		2018
6	中央大学教育学研究会	『教育学論集』	第60集		2018
7	筑波大学教育学系	『教育学系論集』	第42巻 第2号		2018
8	山梨学院生涯学習センター	『山梨学院の生涯学習』	2017年度		2018

No.	著者	タイトル	巻号	出版社	発行年
9	山梨学院生涯学習センター	『山梨学院生涯学習センター研究報告（やまなし学シリーズ⑩）「やまなし学研究 2013—『観光立県』の行方 2013 / 山梨の地域課題—』の記録』	第 31 輯		2018
10	山梨学院生涯学習センター	『山梨学院生涯学習センター研究報告 大学授業改革の現在—山梨学院大学 LED センターの取り組み—』	第 32 輯		2018
11	山梨学院大学・山梨学院短期大学	『山梨学院生涯学習センター紀要 大学改革と生涯学習』	第 22 号		2018
12	日本公民館学会	『年報 特集：公民館再編研究』	第 14 号		2017
13	千葉市生涯学習センター	『「市民（成人）の生涯学習活動に関する実態調査」報告書』			2018
14	特定非営利活動法人 かわさき市民アカデミー	『活動報告書 2017』			2018
15	全国社会教育職員養成研究連絡協議会	『社会教育職員研究』	第 25 号		2018
16	研究代表者 姉崎洋一	平成 26 年度～ 29 年度科学研究費補助金『共同学習・生活史学習の教育学的検討—歴史・比較・実践研究—』			2018
16	姉崎洋一	北海道大学大学院教育学研究院紀要大 130 号別冊 『高等継続教育論の回顧と展望』			2018
17	公益財団法人 京都ユースサービス協会	『若者の成長におけるユースワークの価値—京都市青少年活動センター利用者インタビューから—』			2018
18	長澤成次 編著	『公民館で学ぶ V—いま、伝えたい地域が変わる学びの力』		国土者	2018
19	関口礼子・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫・神部純一・柳田雅明 著	『新しい時代の生涯学習』	第 3 版	有斐閣	2018
20	佐藤一子・安藤聡彦・長澤成次 編著	『九条俳句訴訟と公民館の自由』		エイデル研究所	2018
21	佐藤一子・千葉悦子・宮城道子 編著	『＜食といのち＞をひらく女性たち』		農文協	2018
22	全国障がい者生涯学習支援研究会	『障がい者生涯学習支援研究』	創刊号		2017
23	全国障がい者生涯学習支援研究会	『障がい者生涯学習支援研究』	第 2 号		2018

※事務局受領 2018 年 6 月末分まで

お知らせ・募集

●日韓学術交流研究大会のお知らせ

日韓学術交流研究大会は来年1月に記念すべき第10回大会をアジアの玄関口・福岡で迎えます。初参加の方含めぜひ多くの会員のご参加をお待ちしています。

- ・開催日：2019年1月26日（土）9時開始～
27日（日）13時終了
（終了後エクスカーション）
- ・会場：福岡市立なみきスクエア
（JR博多駅より快速8分千早駅下車1分）
<https://www.namiki-sq.jp>
- ・テーマ：「社会問題の解決に向けた社会教育／
平生教育専門職の役割」
- ・主催：日本社会教育学会・韓国平生教育学会
※プログラムについては、10月中旬頃に学会HP
等でお知らせします。
- ・問い合わせ：国際交流担当理事 秦 範子
noriko-hata@tsuru.ac.jp

●ジャーナル『社会教育学研究』第55巻 論文の投稿募集

『社会教育学研究』第55巻（2019年6月刊行予定）への投稿論文の受付期間は、以下の通りです。学会ホームページに掲載の『社会教育学研究』投稿規定や執筆要領をご確認の上、「社会教育学研究論文電子投稿システム」を用いて、期日までに投稿してください。

【投稿論文受付期間】

2018年11月1日（木）～11月30日（金）
（ジャーナル編集委員会）

「学会からのお知らせ」

2018年第2号（「学会通信」からの通号220号）

2018年7月25日発行

【発行】日本社会教育学会 事務局

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学部環境教育学研究室気付

E-mail: jssace.office@gmail.com <http://www.jssace.jp/>

Tel: 090-5782-1848（月・木曜日 11:00 - 16:00）

【編集】井口啓太郎・矢口徹也（担当理事）、川原健太郎・松田弥花（担当幹事）、堀本麻由子（事務局長）

【レイアウト】市民活動サポートセンター・アンティ多摩 E-mail: auntytama@nifty.com